

(2) 国際図書館協力基金

- ・ナウカ株式会社よりの基金（一口）について、東西合同役員会および総会にて報告。

(3) 寄贈資料搬送事業報告

- ・実施中の事業について報告。
- ・2002年度第2回の募集について、10月1日に発送済。

(4) 海外集合研修（別資料1式）

- ・本日、参加者5名に向けて事前説明会を行う。

審議事項

1. 2002年度第2回寄贈資料搬送事業の実施について

寄贈資料搬送事業実施要領の一部に改正案が出たため、検討を行った結果、下記に改訂することとなった。

- ・「2. 期間」他の要領形式にならって省略とする。
- ・「4. (3) ① 申請に必要な書類」特定の受贈図書館が定まらない場合でも申込みを可能としたい。なお、受贈先が定まらない場合は、事務局側にて探索することとする。

ア. 受贈図書館がある場合

A. 寄贈資料搬送申込書（別紙様式）

B. 受贈承諾書 受贈図書館の作成した受贈を承諾する文書、書簡等

イ. 受贈図書館がない場合

A. 寄贈資料搬送申込書（別紙様式）

2. 来年度の海外集合研修について

第2回目の実施について、研修内容の検討を行った。

- ・第2回目については、今年度シンポジウムテーマ（SPARC）に近い研修内容が望ましいが、SPARC自体には実体がないため、現地（ワシントン）等での見学といった形は難しい。したがって、出版社以外での電子ジャーナルや資料デジタル化への取り組みを行っている機関を中心にプランを組むことが検討された。結果、2003年度はResearch Library Group(RLG)とHighWire(Stanford University)を核に訪問するプランを考えることとなった。
- ・実施時期：2003年10月上旬（予定）とする。
- ・募集人数：5～7名（基本的には図書館事務長レベルの参加者を募集する）

3. 海外派遣研修について（資料15）

研修先（受入機関）として、イリノイ大学モーテンソンセンターのアソシエート・プログラムに申請する方向で検討した。

- ・プログラムは年に2回（8月コース、1月コース）、6週間の期間で開催されている。夏の方が気候もよく、参加者としても希望を出しやすいため、8月コースをターゲット

トとしたい。

- ・ 私立大学図書館協会（JASPUL）としての定員枠（1名）を確保するために、イリノイ大学のプログラム事務局とアグリーメント/パートナーシップ等の提携を行うべきではないかという提案がされた。今後、イリノイ大学側の事務局と詳細を打ち合わせることにする。
- ・ 参加費用は、約4,800ドル（約60万円）＋渡航費（約15万円）が必要と考えられる。委員会としては、参加者に60万円の補助金を助成し、この範囲内で渡航費、研修費、医療保険等を拠出してもらい、その他の生活費は自己負担にて賄うという方針を立てることとした。このことについて、2002年12月6日の常任幹事会にて来年度予算内に組み入れることを報告する予定である。
- ・ 募集については、プログラムの申請期限である2003年1月1日に合わせて募集通知の発送から参加者決定までの予定を出した。（委員会終了後、先方との調整により、募集スケジュールに変更が生じている。）

4. 国際図書館協力基金支援について（資料12,13,17）

今年度の基金支援について、各協力企業に支援要請を仰ぐ。資料内のリストに基づき、各委員の担当を決定した。資料12,13を元にした支援要請書類を、直接または郵送にて各企業に渡すこととする。また、今年度の「ご報告会」については、開催時期を2003年1月とした。詳細については、次回委員会にて検討したい。

委員会終了後、海外集合研修事前説明会（16:30-17:30）を開催した。

（別資料「私立大学図書館協会国際図書館協力委員会主催 2002年度海外集合研修」を参照）

説明会出席者は以下の通り（敬称略）；

日本大学商学部	秋山 正
国士舘大学附属図書館	植田 英範
法政大学図書館	兼子 修一
福岡工業大学附属図書館	狩俣 恵常
神奈川大学図書館	高橋 則雄
紀伊國屋書店	新元 公寛

以 上

*次回日程

12月3日（火）関西学院大学